



バングラデシュ
ロヒンギャ難民緊急援助

65万人の命の危機を救え！ 緊急援助をさらに拡大

ミャンマー西部のラカイン州で起きた武力衝突をきっかけに、隣接するバングラデシュへの大量流入が続くロヒンギャ難民。MSFではスタッフを増員し、医療援助を推し進めています。

診察をするMSFの医師。クトゥパロンの難民キャンプにある診療所では、連日約400人の患者を受け入れている。

コンゴ民主共和国
カサイ地方緊急援助



いまだ不足する人道支援 傷ついた人びとに医療を

繰り返される武力紛争の飛び火によって、150万人規模の国内避難民が発生しているコンゴ民主共和国のカサイ地方。隣国アンゴラでも展開される緊急援助をお伝えします。

左腕切断の可能性もあると診断されたトウンバさん。一番下の子どもを殺され、自身もナタで切りつけられて、再び襲われる恐怖から病院へ来ることができなかったという。

Staff Story — MSFスタッフの話

生き延びることから自立へ

「国境を越えアンゴラの難民キャンプへ逃れて来た人びとの多くは、家を焼かれ、家族を亡くし、着のみ着のままでした。避難中に家族とはぐれ、たった1人でたどり着いた子どももいました。活動開始当初、緊急水準を越えていた栄養失調の患者数は、現在対応できるレベルまで落ち着いてきました。下痢などの感染も集団予防接種で収束に向かっていきます。ですが情勢は安定しません。帰るあてのない人が大勢いるのです」



アンゴラ/活動責任者
ジョアン・マルティンス

紛争

争が続くコンゴ民主共和国の中でも平穏だった南部のカサイ地方に、民間人を巻き込んだ暴力の嵐が吹き荒れたのは2016年8月のこと。過去1年の間に5000人以上が命を落とし、80カ所以上の集団埋葬地が見つかったといわれます。

国境なき医師団(MSF)の診療所によりやくたどり着いた人びとの心身の傷が、その凄惨さを物語ります。生後11カ月の孫を抱えてやぶに3週間も身を潜め、原野をいくつも越えMSFの外來栄養治療センターまで来たマシヤンガさんは「こんなひどい暴力にあったのは、国が独立して以来、初めてです」と涙ぐみます。「ある夜、武装した大勢の男たちが突然村を襲い、孫のムルンバの両親の首をはねたのです。村は完全に壊さ

れてしまいい親類もバラバラです」。

また銃撃やナタで切りつけられるなどの重傷を負っても、再び武装勢力に見つかって殺される恐怖から数ヶ月間、森などに身を隠す人も多く、診療所に来た時には、既に深刻な事態に陥っていることもあります。MSFは、2017年3月に活動を開始以来、特に医療援助の届きにくい郊外に移動診療チームを派遣し、地域の診療所に医薬品や医療物資を無償で提供してきました。さらに中心都市のツイカバでは、4軒の医療機関を支援、外來栄養治療センター10軒の設置にも協力しています。しかし、もともと脆弱な地域の保健医療施設の約半数は略奪や放火などで壊滅的な被害にあっており、復旧の見通しはいまだ立っていません。

カサイ地方ツイカバ市活動実績 (2017年6~9月)

子どもの診療件数 : 約 **5,000** 件

重度急性栄養失調治療件数 : 約 **1,000** 人

そのほか手術約200件、暴力によるけがの治療155人、性暴力被害者のケア30人など、活動を続けている。

*OCHA (国連人道問題調整事務所) 調べ

Staff Story — MSFスタッフの話

私が見た、過酷でもどかしい現実

「難民キャンプの暮らしは想像を絶するものでした。竹で骨組みを作りビニールシートを被せたシェルターは、雨が降れば外は泥だらけに。井戸は掘りが浅いので水は清潔とはいえ、トイレの近くにあるなど衛生面も心配でした。援助が行き届かずシェルターさえない人もいました。日本人がロヒンギャ難民の窮状を自分のことのように考えるのは難しいかもしれません。だからこそ、現場を見た私が伝えねばと思います」



看護師
くらのだん ちえ
倉之段 千恵

MSFの独自調査の結果、ロヒンギャの人びとが受けた暴力の甚大さが明らかにになりました。昨年8月25日からの1ヶ月間で約9000人が死亡、その内の6700人以上が殺害されたとみられ、しかも730人は5歳未満の子どもです。「ロヒンギャの人びとは、みなひどい体験をしています。家に閉じ込められたまま火をつけられた人。家族を失って身寄りのない子どもも治療しました。女性が連れてきた生まれたばかりの赤ちゃんは、国境の草むらに置かれていたそうです」MSFのドイツ人医師コンスタンティン・ハンケは表情を曇らせます。

南東部にあるコックスバザール県の難民キャンプでは不衛生な環境に大勢の難民が暮らしているため、下痢や気道感染などさまざまな健康被害に苦しんでいます。また子どもたちの栄養失調も深刻で、重症患者の受け入れも追いついていません。MSFはスタッフを2300人規模に増員、同県内で19の診療所を運営するほか、4カ所の入院施設と3カ所の一次医療センターで難民の対応に当たっています。診療件数は既に14万2980件以上で、昨年同時期の約10倍に当たる人びとを治療しています。

(2017年12月下旬現在)

コックスバザール県活動実績 (2017年8月25日~12月下旬)

診療件数(診療所・移動診療) : **142,980** 件以上

重度急性栄養失調治療件数 : **1,020** 件以上

5~14歳の子どもを中心に、ジフテリア感染が拡大し、MSFの診療所でも2,000件以上を治療した。